

新連載 偏差値より研究テーマが面白い!

ゼミナールラブ!

Seminar Love

03

時代の最先端? いやいやマニアックなだけでしょ!?
ともあれ、強い信念のもとユニークでエキサイティングな
ことだけは確かな、知られざる大学の研究室を探訪します。

text = 春日井章司 photo = 武市公孝

立正大学
文学部社会学科

小宮信夫研究室



景色から未来の犯罪を予測

研究テーマ

科学的な防犯をテーマとした犯罪社会学を研究。犯罪が成功しそうな雰囲気、犯罪の機会となる犯行空間を対象とする「犯罪機会論」をベースに、実習では外に出て町の犯罪空間を検証する。また小学校を対象に子供を犯罪から守る「地域安全マップ」作りを啓蒙している。

西欧では歴史のある犯罪学だが、日本では法律があれば犯罪抑止ができると思われ、大学の法学部に犯罪学を教える学科はなかった。小宮教授は法務省の役人を経て留学した英国ケンブリッジ大学で「犯罪機会論」に出会い、犯罪を抑止するのは社会学だと気づいた。

重要なのは、犯罪の動機や原因の追求ではなく、景色。「入りやすく見えにくい場所」で犯罪は起きるとし、その意味で日本の公園と公衆トイレのデザインは世界一危ないという。

見かけで人を疑う社会は子供のためにはならない。そんな持論から、防犯教育に必要なのは「景色解読力」と教える。教壇に立つて19年目。「小宮イズム」はじわじわと広がっている。